

大学院教育支援機構（DoGS）海外渡航助成金 報告書

Outcome report

| | |
|--|--------------------------------------|
| 計画名 Plan | 在豪ブータン人コミュニティの形成と多文化共生に関する研究 |
| 氏名 Name | 菊川翔太 |
| 研究科・専攻・学年 Graduate school/Division/Year level | アジア・アフリカ地域研究研究科・東南アジア地域研究専攻・博士前期課程2年 |
| 渡航国 Country | オーストラリア |
| 渡航日程 Travel schedule | 2024年2月15日～2024年3月8日 |

- ページ数に制限はありません。No limits on the number of pages
- 写真や図なども組み込んでいただいて結構です。You can include pictures or illustrations.
- 各項目について具体的に記述してください。Please fill in each item specifically.
- 日本語または英語で記載ください。Please use Japanese or English.

渡航計画の概要 Outline of the travel plan

渡航の目的

今回の渡航は、博士予備論文『オーストラリアにおけるブータン人エスニック空間の展開に関する地理学的研究（仮題目）』の論文作成を目指したフィールドワークを行い、論文作成に必要な基礎データの収集および次回調査への人脈構築をすることが目的であった。

研究の背景

グローバル化の進展により、国際移民の量的・質的な拡大が進む中で、異なるエスニック集団が共生する多文化共生社会の実現が求められている。「移民先進国」オーストラリアは、多文化主義を推進する移民国家の代表例として挙げられ、様々な分野から数多くの移民研究がなされてきた。オーストラリアの移民政策の特徴としては、福祉国家的な多文化主義から新自由主義的な多文化主義への変容、移民の「アジア化」の進展、移民への「入口」としての留学生政策などが挙げられる。こうしたオーストラリアの移民・留学生政策に対し、これまで中華系やインド系などエスニックマジョリティを中心に多くの研究が蓄積されてきた。一方でエスニックマイノリティに関する研究は比較的限られている。アジア化や新自由主義的な移民政策が進むオーストラリアにおいて、周縁化されているエスニックマイノリティの視点から、その現状や課題を明らかにすることは重要なテーマである。

そうした中、2022年以降のポストコロナ期に急増しているのがヒマラヤの国ブータンからの留学・出稼ぎ・移住である。2022年7月からのわずか1年間でブータンの全人口の約2%に相当する1万5000人以上がオーストラリアへのビザを取得した。オーストラリア側のプル要因としては、コロナ禍以降の経済再開と労働者不足などがあり、ブータン側のプッシュ要因としては、コロナ禍による経済不況や社会改革による大量解雇などが挙げられる。オーストラリア全人口に占めるブータン人の割合はいまだ少ないものの、人口80万人弱の「小国」ブータン国内においてその人口流出は大きな社会問題となっている。実際に、ブータンから公務員約1500名、教師350名が離職しその多くが私費留学生および配偶者としてオーストラリアに移住しており、ブータンでは「頭脳流出」が深刻化している。

研究課題

筆者の研究課題は、オーストラリアにおける多文化共生（多文化主義政策）の現状と課題をブータン人移民の視点から明らかにすることである。この研究の遂行には、オーストラリアとブータンという異なるエスニシティや、移民政策と移民個人という異なるスケール間を越境する必要があり、両国の地域研究の知見、人文地理学的な空間理解、語学力、長期調査による人的ネットワークの蓄積が求められる。そのため、本渡航は、まず予備調査としてオーストラリア・パースのブータン人コミュニティの概況を把握し、今後の調査のための人脈を構築することを目的とした。

成果 Outcome

調査方法

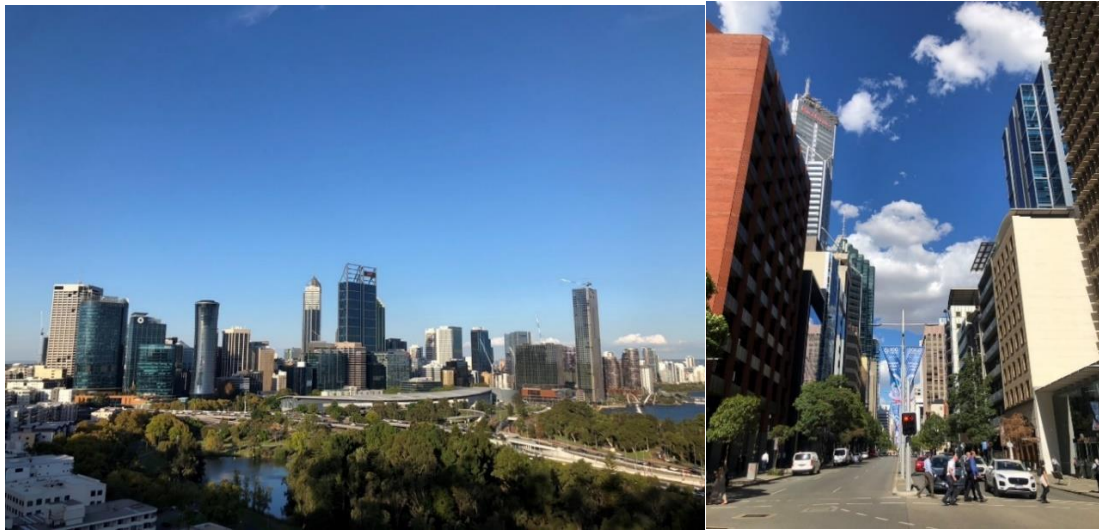
今回の滞在では、2024年2月16日から3月7日まで西オーストラリア州パースに滞在した。パース市内中心部のバックパッカー・ホステルに宿泊し、パース市内を中心に研究課題に関する聞き取り調査や参与観察を行った。特に、①オーストラリアおよび地方都市パースの概況、②ブータン人エスニック組織の概況、③パース在住ブータン人の概況について調査を行った。オーストラリアおよびパースの概況については、中心市街地や住宅街、州立博物館、美術館、大学、料理店などを訪れた。ブータン人エスニック組織の概況については、パース・ブータン協会（Association of Perth Bhutan Inc.）のイベント、ブータン料理店、ブータン雑貨店などを訪問した。パース在住のブータン人の概況については、知り合いのブータン人の紹介等を通してブータン人合計約20名にお会いした。

オーストラリアおよび地方都市パースの概況

オーストラリアや地方都市パースに関する情報収集のため、パースの博物館や美術館、大学、ビジターセンター、図書館などを訪問した。パースの都市構造として、パース中心部から周辺部に向けて、高層ビルが立ち並ぶ中心ビジネス街（Central Business District）、レストランやバーが集まる繁華街、戸建て住宅が広がる住宅街と景観による区分が変化していた。

パース市内を散策していると、オーストラリアの多文化社会を示す事例が多くみられた。CBD近くの繁華街には、欧米系、アジア系、アフリカ系など世界各地のエスニック料理店が立ち並んでいた。また書店には、英語だけでなく日本語や韓国語なども含め世界の多言語を学習する書籍が並んでおり、州立図書館にも多言語学習のコーナーが設置されていた。州立の専門学校（TAFE）には移民への無料英語のレッスンが用意されていた。公園では週末にインドネシア・フェスティバル、イタリア・フェスティバルなどの様々なエスニシティの祭りが開催されていた。

オーストラリアは移民への「入口」として留学生を積極的に受け入れている。オーストラリア政府は大学協定の最終報告書（The Australian Universities Accord Final Report、2024年）で、2050年までにオーストラリアの大学の定員を現在の2倍にすると述べている。パースにおいても留学生の受入れは積極的に見られ、パース中心部のパース・シティ駅前では、大学の新しいキャンパスや学生寮の設置に向けての建設工事が進められていた。またオーストラリアでは留学生も2週間で最大48時間の労働、また留学生の配偶者も条件によって異なるが労働が認められており、学費や生活費、母国への送金の費用を稼ぐことができる。このようにオーストラリアでは留学生として滞在しながら労働できる環境にあることが、ブータン人が渡航先として他の国ではなくオーストラリアを選ぶ一因となっている。



写真：オーストラリアの地方都市パースの街並み（筆者撮影）

パースのブータン人エスニック組織の概況

パース・ブータン協会（Association of Perth Bhutan Inc.）に関しては、ブータン国王の誕生日である2月21日に開催されていたイベントに参加した。イベントは朝の9時から開始され、オーストラリアおよびブータン国歌の斉唱、仏教の儀礼、その後ブータンの歌やダンスが披露された。パース在住のブータン人約70名が集まっていた。イベントには、Desuupと呼ばれるボランティア10名ほどが参加し食事の提供や後片付けを手伝っていた。会場はパースのフィリピン人コミュニティが管理している会館を利用しており、エスニックマイノリティとして他国のエスニック資源を活用している様子が読み取れた。



写真：パース・ブータン協会でのイベントの集合写真（協会のホームページより）

ブータン料理を提供している料理店はパースにおいて少なくとも8店は確認できた。料理店の外観や店名から分類すると、ブータン料理店4店、ブータン・ネパール料理店2店、チベット料理店1店（ブータン人が経営）、ヨーロッパ風のカフェ1店（夕食のみブータン料理を提供）であった。また別のヨーロッパ風のカフェでは、ブータン料理を提供していないものの店員はブータン人であり、内装もブータン風の装飾がなされていた。そのうち数店は地図アプリでも「ブータン料理」と登録されていないお店であったことから、他にもブータン料理を扱うお店が営業されている可能性はある。多くの料理店で、ブータン料理に加えネパール料理やインド料理も提供していた。客層は料理店によって異なるもののブータン人が中心だった。



写真：パースのブータン料理店の外観（筆者撮影）

パースにあるブータン雑貨店を滞在中に3度訪問した。オーストラリアのブータン雑貨店はこの店舗1店のみである。この雑貨店は、2022年の12月17日に開業した。パース市中心部から車で10分ほどの大通り沿いに立地している。店内には、ブータンの民族衣装や織物、唐辛子やピクルスなどの食料品、仏教関連用品などが販売されている。また店内には、買い物のみならず、団欒できるスペースがある。筆者が訪れた際、ブータン人の友人同士が集まってお話ししており、パース在住ブータン人のコミュニティの核の一つとなっている様子が窺えた。



写真：パースのブータン雑貨店の外観と内観（筆者撮影）

今回は訪れることができなかったが、他のブータン人のエスニック組織として、ブータン仏教の組織、スポーツ組織（サッカーやバスケットボールなど）、小学校でのゾンカ語の補修クラスなどが運営されている。

パース在住のブータン人の概況

今回の3週間の滞在中に約20名のパース在住のブータン人とお会いした。ブータン人の友人からの紹介やパースの料理店や雑貨店などで出会った方が中心である。また直接お話しはしなかったが、街中でも駅や公園、スーパーマーケット、飲食店など多くの場所でブータン人の姿を目にし、ゾンカ語やシャルチョップパ語などブータンの現地語での会話が聞こえてきた。以下では、今回直接お話しをした方からの情報を主に整理する。パース在住ブータン人の労働環境、学習環境、居住環境、食生活、心身の健康、将来の進路に分けて整理する。留意点として、ここでは「ブータン人」として括りその特徴を整理しているが、ブータン人の中にも年齢や宗教、出身地など多様な背景あり、ここで述べている特徴には偏りがある。

労働環境について。まずパース在住のブータン人は、その多くが労働を目的とした留学生および配偶者として滞在している。あるブータン人は「オーストラリアの賃金はブータンの約10倍で、ブータンで1か月の給料がオーストラリアでは3日で、ブータンで10年分の給料がオーストラリアでは1年で手に入る」と述べていた。就労先は様々であるが、今回の調査対象者では、飲食業、高齢者ケアや障がい者ケアなどのケア産業、運送業、ブータンのエスニックビジネス（ブータン料理店や留学エージェント）などが複数名いた。彼らは留学先の学費、パースでの生活費、母国への送金の費用確保のため、長時間・不規則な労働時間の中働いている場合が多い。2つ以上仕事を掛け持ちしている事例や、就労時間の制限を超えて働いており、現金を記録が残らないよう手渡しで受け取っている事例などもみられた。

学習環境について。パース在住のブータン人留学生の多くが、大学院の修士課程に在籍しており、他にも大学の学部課程、専門学校、語学学校なども多くみられる。大学院修士課程が好まれる理由は、修了年数が学部課程よりも短く学費が抑えられる点、留学生の配偶者の就労時間に制限がない点などが挙げられる。またこれまでの学歴として、ブータン国内の大学出身者だけでなく、インドやシンガポールなど一度ブータン国外で留学を経験してオーストラリアにきた事例も多くみられた。大学院で所属するコースを、学部で専攻したコースではなく、永住権の取得を目指しやすいコースを選択しているブータン人もいた。大学院修士課程のあるコースには、ブータン人留学生がクラスの半数以上を占めていると伺った。学校の授業は少ない人では週に2回のみであった。オーストラリアでの収入はブータンでの収入よりも割が良いものの、長時間のアパートと学校での授業や課題を両立するのに大きな負担を感じているとの声も聞いた。

居住環境について。パース在住ブータン人の多くがシェアハウスに居住している。家賃を抑えるため、1軒のシェアハウスに7名で共同生活をしている事例もみられた。シェアメートに関しては、ブータン人の親戚や友人だけでなく、ブータン人以外国籍の方と居住している事例もみられた。シェアハウスの部屋数が足りずにリビングで寝ている方もいた。シェアハウスを見つける際は、主に知人の紹介やFacebookグループの投稿などから情報を得ていた。またシェアハウスに移住当初は親戚の家で共同生活をしていても、その後、より快適な生活空間を求めて新しいシェアハウスに移住する事例もみられた。その場合、仕事を見つけてから家賃を分割して分割して負担すると伺った。

食生活について。パースではブータン料理の食材の入手の難しさから、ブータンの食文化が変容している事例もみられた。ブータン人は唐辛子料理を好んで食べるが、オーストラリアのスーパーで販売されている唐辛子は高価かつ辛さがあまりないため、キムチで代用している事例もあった。ブータンでは、ドマ（ベテルナッツを葉にくるんだもの）を嗜好品として愛用する方が多いが、ある訪問先のブータン人の家では、ドマの代わりに同じく体を温める作用のあるシナモンスティックを食後に嗜んでいた。

健康面について。ブータンでは医療費が基本的に無料だが、オーストラリアでは一時滞在の移民へは医療費が高額であるため、病院に気軽に行けないという声を聞いた。特に、40代の男性の方で高血圧の傾向がある方は自身の健康状態が不安であると述べていた。またブータンとオーストラリアで大きく生活環境が異なり、鬱の症状など精神的な健康の不安を抱えている事例もみられた。

今後の進路について。永住権を目指しているのかはそれぞれ個人によって異なっていた。「ブータンに帰国したい」と述べている方もいれば、「オーストラリアで永住権を目指している」と述べている方もいた。20代女性のある方は、ブータン国内で公務員を辞職してオーストラリアにきたため、オーストラリアで永住権を目指していると述べていた。永住権が取れると、オーストラリアでの滞在期間や就労時間の制限がなくなり、また日本の国民保険に相当するメディケアにも加入できるというメリットもある。一方、永住権取得の一つの壁として年齢制限があり、40代のある男性は将来的にはブータンに帰国をしたいと述べていた。しかし、オーストラリア滞在中のブータンへの一時帰国は、航空券代や家族親戚へのお土産代などに費

用が掛かるため現段階では難しいとの声も聞いた。



写真：ブータンのルンタ（経文旗）が飾られた家（左）、友人宅でのブータン料理（右）（筆者撮影）

今後の展望 Prospects for the future

今回の調査では、オーストラリアおよび地方都市パース、パースのブータン人エスニック組織および個人の概況を整理した。オーストラリアおよび地方都市パースの概況からは、「移民先進国」として多文化社会を示す事例が多くみられた。また地方都市パースにおいても都市開発の現状から今後さらに留学生が増加していく様子を読み取れた。エスニック組織に関しては、パース・ブータン協会、ブータン料理店や雑貨店の整理を通して、数年ほど前からパースに拡大しており、ブータンのエスニシティを維持しながらも他のエスニック資源を活用している点が推測できた。またパースのエスニック組織の形成や拡大は、留学生の雇用や利用、留学エージェントの関与など「留学」を軸に展開している点も今後の検討事項として確認できた。パース在住のブータン人に関しては、労働環境、学習環境、居住環境、食生活、今後の進路などを整理した。パース在住ブータン人は労働目的の留学生として滞在している場合が多く、雇用条件、健康状態、シェアハウスでの生活など安定した立場ではなく、不安定な立場にあることが読み取れた。一方、パース在住ブータン人の整理からは、様々な課題を感じながらも今後の生活やキャリアを切り拓こうとしている姿が読み取れた。今回は基礎データの収集であったため本格的な調査は行えなかった。

今後は、今年5月の博士予備論文の執筆を進めながら研究テーマをブラッシュアップしていきたい。また今回の渡航を通して、移民・多文化社会全般の研究テーマ、特にオーストラリアのブータン人コミュニティの研究に対する関心が強まった。そのため、オーストラリア移民研究を現地で学びながらブータン人の調査をしたく、来年2月からオーストラリアのパースにある大学院の修士課程での留学を予定している。その大学はパースの大学の中でブータン人留学生が多く在籍する大学の一つであり、筆者自身がブータン人留学生の進路をたどり、可能な限りブータン人留学生の視点から考えたいというのも一つの理由である。将来的には現代アジア・オセアニア地域を中心に人文地理学的視点から多文化共生社会の実現とその理論への貢献ができるよう本事例をより深く追求していきたい。